

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
文求堂・田中慶太郎
一戦前最大の中国語教材出版事業の
背景にあるもの—
- 4 **過去問に学ぶ**
4級日文中訳問題
ワンポイント・アドバイス
- 6 **語彙をふやそう**
服装・履物
- 8 **看图学惯用語**
絵で見る慣用語(3)
- 10 **紛らわしい文法表現**
“愿意”と“肯”
- 12 **翻訳添削**
どこがおかしい?なぜおかしい?
—「日文中訳添削講座」から(24)
- 14 **新しいことばと古いことば**
数字と関連する日中の長寿を祝うことば
- 15 **読者の広場**
中国語とのつきあいを振り返る

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

文求堂・田中慶太郎 一戦前最大の中国語教材出版事業の背景にあるもの一

日本中国語検定協会理事・東北学院大学 富田昇

1900年から1945年の終戦に到るほぼ半世紀で見ると、我が国における中国語関連書籍の発行部数は1400点ほどであるが、その推移は、日清戦争を契機に本格化し、日露戦争時に小ピークを迎え、満州事変以降1930年代に突出するなど、わが国の大陸進出の動向を如実に反映させたものであった。

その中でこれから取り上げる文求堂・田中慶太郎の出版部数は200点余で、全体の14～5%を占めている。しかも「日本の主な中国語関係の書籍は、ほとんどこの文求堂から発行された」（六角恒広『近代日本の中国語教育』）というように、文求堂は戦前を代表するような『急就篇』『官話指南（改訂）』などの中国語教材のベストセラーやロングセラーを大量に発行しており、戦前日本の中国語出版事業全体に占める同店の位置は、発行内容や部数から見れば一層の重みを持っていた、と考えられる。他方、田中慶太郎は、中国古書籍や古書画の輸入販売などで名を馳せ、世界的な「巨商」と称されていた。では、こうした側面をもつ慶太郎と経営上の柱の一つでもあった中国語関連書籍の出版は、いかにして結びついていたのか。ここではその経歴や事業の歩みの中から、慶太郎の意図や歴史的な背景などをたどってみたい、と思う。これにより、戦前における中国語事情の一端が、垣間見えてくるかもしれない。

田中慶太郎は、京都の古書肆の老舗、文求堂の嫡男として明治13年（1880）に生れた。日清戦争後に中国語の学習を志し、明治20年代末から東京外国語学校に学んだ（清語学科別科、明治33年7月第二回修了生）。同校では学友となった島田翰の影響によって、書誌学への関心を抱き始めている。義和団事件のあった明治33年（1900）末に、後年高名な篆刻家となり金石学にも造詣の深かった河井荃廬に同行し初めて中国を訪れる。上海・蘇州・杭州など江南の地を巡り、翌34年には北京行きの願いを叶えている。こうした時流や経験を背景に、同34年に、文求堂は東京初の本格的な唐本輸入商として開業する。当時はなお文人趣味の余韻が残り漢詩文流行の末期にあっていた。特に嘉慶・道光など清朝後期の詩文集の需要が旺盛であり、日露戦争前後には一時、『説文』の流行もあったという。その後、田中は明治41年（1908）から44年までの3年間、清朝最末期の北京に居住している。辛亥革命（1911年）前後の中国は、敦煌文書や甲骨文字の発見などに刺激され、清朝の伝統的な考証学や金石学が近代的な文献学や考古学に脱皮してゆく重要な転機を迎えていた。近代的学術の勃興である。田中は、王朝滅亡期の混乱の中で、時代の潮流を見抜き、敦煌文書や甲骨文字をいち早く紹介したり、特に本格的な目録販売方式などを通して大量の漢籍を日本にもたらした。

田中は、わけても宋元版や古写本の鑑識に研鑽をつみ、また古書画・法帖・文房

具など美術品に対する関心をも深めていった。その学識と卓越した鑑識眼は、内藤湖南、徳富蘇峰らの大家にも認められ、特に文献批判やその根本資料の提供の面でわが国学術界にも大きく貢献した。また西園寺公望や森鴎外をはじめ、特に古美術を介して愛硯家として知られた犬飼毅や書画の収集家として著名な山本悌二郎、画家であり書道研究家でもあった中村不折らとも親交を深めていた。しかし不幸にして関東大震災によって、秘蔵されていた貴重書や古書画は社屋もろとも灰燼に帰した。田中はこれを機に古美術品の扱いを廃するなど、営業方針を大胆に転換した。

既に触れたように、田中は東京開業直後から終戦に到るほぼ半世紀にわたり、大量の中国語関連書籍を発行し続けていたが、関東大震災後には、古典の影印本・翻刻や校訂本類もかなり刊行し、同類の新刊本も大量に輸入するようになった。古典テキスト類（教材）の需要に応えながら、震災後の難局を乗り切ったのである。さらに昭和に入ってから、王国維・梁啓超・錢玄同・郭沫若・カールグレン・王力らの学者や魯迅・周作人など文学者の著述を刊行し、当時最新の研究成果や学術、新文学の動向を他に先駆けて紹介している。震災前の古書籍・古書画を中心とする「懐古」的な輸入販売から、若手研究者の育成を視野に、学術の進展と古書籍の需要を結びつける将来を見据えた販売方針に転換したのである。長沢規矩也、仁井田陞らは学生の頃から文求堂に出入りするようになり、中国文学研究会（昭和9年創設）に集った若き日の竹内好や増田渉らも陰に陽に田中の支援を受けていた。特に郭沫若との親交は、周知の通りである。

田中の漢籍将来事業は、とくに文献批判の方法やその根本資料の提供の面で京都市立大学「支那学」における「経典批判」の成立に関わっていたように思われる。京都の学風は清朝考証学を継承した実証主義に立脚し、儒教の経典をも文献批判の対象としていた。それは江戸以来の儒学（朱子学）の伝統を継ぎ、明治国家体制の確立過程で再編された東京帝国大学を頂点とする護教的な「漢学」とは、異質なものであった。

しかし田中はさらに、新文化運動における白話文の提唱や儒教批判の口号を汲み取りながら、古典を対象とし文献批判の枠にとじこもりがちな京都「支那学」の殻をも破ろうとし、また漢文訓読に固執するアカデミズムへの批判を滲ませているようにも思われる。

そもそも中国研究を外国研究として客体化していれば、中国語の学習は当然その前提になるが、こうした意識が当時においては一般に希薄であった。現代中国を対象とし、その新潮流に真摯に立ち向かう研究はなお乏しく、また一方で甲骨文や金文などの考古資料や言語学、民俗学の成果なども組み入れた本格的な古代史研究も未成熟なままであった。田中はこうした状況を見通し、より科学的な古典・歴史研究と多彩な現代中国研究の確立を念願し、この両者を統合する近代「中国学」の胎動を、さしあたりその身邊から促そうとした、と見られようか。このあたりに、田中における中国語出版へのひとつの思いを汲み取ることができるかも知れない、と考えている。

4級日文中訳問題ワンポイント・アドバイス

『中国語の環』編集室

4級筆記問題の第5問は日文中訳で、毎回10字～20字程度の日本語の文を中国語に改める問題が出題されています。いずれも入門段階で学ぶ文法の基本に沿ったものばかりです。解答に当たっては、ただ漫然と文を組み立てるのではなく、何が要求されているかをよく考えたうえで答案を作成することが大切です。

今回は2012年度の3回の試験問題について、問題文と解答例を掲げ、ポイントはどこにあるか、陥りやすい誤りはどこかなどを簡単に記してみました。2013年度以降の問題については協会編の『解答と解説』（年度版、各回版）を参照してください。

【第77回（2012年6月）】

- (1)黒板に彼の名前が書いてあります。

黒板上写着他的名字。Hēibǎn shàng xiězhe tā de míngzì.

ポイント ある場所に何かが存在することを表す文ですから、「場所+動詞+存在するもの」の順で表現します。

- (2)郵便局は駅の向かいにあります。

郵局在车站(的)对面。Yóujú zài chēzhàn (de) duìmiàn.

ポイント 「…に…がある」という場合の「ある」は“在”を用い、「在」+場所の順に並べます。「向かい」は“対面(儿)”です。

- (3)去年の夏、大阪は暑かった。

去年夏天大阪很热。Qùnián xiàtiān Dàbǎn hěn rè.

ポイント 「暑かった」と過去のことを言っていますが、“很热了”としてはいけません。また、ただ“热”とするのではなく、“很”を添えることを忘れずに。

- (4)あなたも野球を観るのが好きですか。

你也喜欢看棒球(比赛)吗? Nǐ yě xǐhuan kàn bàngqiú (bǐsài) ma?

ポイント 日本語では「野球が好きだ」だけでも通じますが、中国語はどうかことが好きなのかを言います。

- (5)彼は入浴中です。

他正在洗澡呢。Tā zhèngzài xǐzǎo ne.

ポイント 動作が進行中であることをいうには動詞の前に“正在”“正”“在”などを置きます。“正在…呢”は進行中であることを強調する表現です。

【第78回（2012年11月）】

- (1)午後も雨が降りますか。

下午也下雨吗? Xiàwǔ yě xià yǔ ma?

ポイント 「雨が降る」は“刮风”(guā fēng一風が吹く)、“下雪”(xià xuě一雪

が降る) などと同じく、動詞を先に言います。

- (2) 図書館へはどのように行きますか。

去图书馆, 怎么走? Qù túshūguǎn zěnmě zǒu?

ポイント 「図書館へ」の「へ」は“去”で表します。「どのように行く」は、“怎么”を用いて“怎么走”とします。

- (3) 机の上に傘が1本置いてあります。

桌子上放着一把伞。Zhuōzi shàng fàngzhe yì bǎ sǎn.

ポイント 第77回の(1)と同じくある場所に何かが存在することを表す文です。動詞“放”のあとに“着”を付けることを忘れずに。「傘」の助数詞は“把”です。

- (4) わたしは9時から12時まで用事があります。

我从9点到12点有事。Wǒ cóng jiǔ diǎn dào shí'èr diǎn yǒu shì.

ポイント 「…から…まで」は“从…到…”とします。“有事”は“有事情”としてもかまいません。

- (5) あさってわたしは友人に会いに行くつもりです。

后天我打算去跟朋友见面。Hòutiān wǒ dǎsuan qù gēn péngyou jiànmiàn.

ポイント 「…するつもり」は“打算”を用います。“跟朋友见面”は“看朋友”でもかまいません。“见面朋友”と言うことはできません。

【第79回 (2013年3月)】

- (1) わたしは毎朝7時に朝食をとります。

我每天早上7点吃早饭。Wǒ měi tiān zǎoshàng qī diǎn chī zǎofàn.

ポイント 「毎朝7時に」は日本語と同じく“每天”“早上”“7点”とだんだん範囲を絞るように並べます。“早上”は“早晨”(zǎochen)としてもかまいません。

- (2) この会社には若い人が少ない。

这个公司年轻人很少。Zhège gōngsī niánqīng rén hěn shǎo.

ポイント “这个公司”を主語の位置に置いたうえで、“年轻人很少”という文の形をした述語を用います。“很少”は“不多”としてもかまいません。

- (3) わたしは万里の長城に行ったことがあります。

我去过(万里)长城。Wǒ qùguo (Wàn Lǐ) Chángchéng.

ポイント 「…したことがある」という経験を表す文ですから、動詞の後ろに“过”を添えます。“去过”は“到过”としてもかまいません。

- (4) 彼らは図書館で読書しています。

他们在图书馆看书。Tāmen zài túshūguǎn kàn shū.

ポイント 「…で」と場所を表すには前置詞“在”を用い、出来上がった前置詞句を動詞の前に置きます。

- (5) 青島の夏は広州ほど暑くありません。

青岛的夏天没有广州热。Qīngdǎo de xiàtiān méiyǒu Guǎngzhōu rè.

ポイント 「AはBほど…でない」という比較の表現は“A没有B…”とします。“A没有B那么nàme…”と“那么”を加えることもできます。

服装・履物

『中国語の環』編集室(U)

“衣”“食”“住”“行”のうち，“食”については第95号に，“住”については第96号に，“行”については第97号に取り上げたので、今号では残る“衣”について取り上げる。

併せて履物類をも取り上げるが、うち靴については短靴が“鞋”，長靴が“靴子”と筒状の部分の長短によってはっきりと区別されることに注意したい。

いくつかわかりますか？

以下はおよその目安です。

全部	40語以上	30語以上	20語以上
2級以上	3級レベル	4級レベル	準4級レベル

<input type="checkbox"/> 1. 衣服	yīfú	衣服。〈衣裳 yīshang〉とも。《件 jiàn》
<input type="checkbox"/> 2. 礼服	lǐfú	礼服。
<input type="checkbox"/> 3. 便服	biànfú	ふだん着，平服。
<input type="checkbox"/> 4. 制服	zhìfú	制服，ユニフォーム。
<input type="checkbox"/> 5. 军服	jūnfú	軍服。〈军装 jūnzhuāng〉とも。
<input type="checkbox"/> 6. 西服	xīfú	洋服，スーツ。《件 jiàn》《套 tàò》
<input type="checkbox"/> 7. 中山装	zhōngshānzhuāng	中山服。
<input type="checkbox"/> 8. 连衣裙	liányīqún	ワンピース。
<input type="checkbox"/> 9. 唐装	tángzhuāng	中国服，チャイナ服。
<input type="checkbox"/> 10. 旗袍	qípáo	チーパオ；中国式のワンピース。
<input type="checkbox"/> 11. 上衣	shàngyī	上着。
<input type="checkbox"/> 12. 背心	bèixīn	チョッキ，ランニング・シャツ。
<input type="checkbox"/> 13. T恤衫	T xù shān	Tシャツ。〈T恤 T xù〉とも。
<input type="checkbox"/> 14. 领子	lǐngzi	えり。
<input type="checkbox"/> 15. 领口	lǐngkǒu	えり口，えり回り。
<input type="checkbox"/> 16. 袖子	xiùzi	そで。
<input type="checkbox"/> 17. 口袋(儿)	kǒudai (r)	ポケット。
<input type="checkbox"/> 18. 纽扣(儿)	niǔkòu (r)	ボタン。
<input type="checkbox"/> 19. 裤子	kùzi	ズボン，パンツ。《条 tiáo》
<input type="checkbox"/> 20. 内裤	nèikù	パンツ，パンティー。
<input type="checkbox"/> 21. 短裤	duǎnkù	半ズボン。
<input type="checkbox"/> 22. 开裆裤	kāidāngkù	(幼児用の)またあきズボン。

□23. 牛仔褲	niúzǎikù	ジーパン, ジーンズ。
□24. 毛褲	máokù	毛糸で編んだズボン下。
□25. 棉褲	miánkù	綿入れのズボン。
□26. 裙子	qúnzi	スカート。(《条 tiáo》)
□27. 毛衣	máoyī	セーター。
□28. 羽絨服	yǔróngfú	ダウンジャケット。
□29. 运动服	yùndòngfú	運動着。
□30. 泳装	yǒngzhuāng	水泳着。〈泳衣 yǒngyī〉とも。
□31. 雨衣	yǔyī	レインコート。
□32. 外衣	wàiyī	上着, コート。
□33. 大衣	dàyī	オーバー, コート。
□34. 夹袄	jiá'ǎo	あわせの上着。
□35. 棉袄	mián'ǎo	綿入れの上着。
□36. 皮袄	pí'ǎo	裏が毛皮の上着。
□37. 衬衫	chènshān	シャツ; ワイシャツ, ブラウス。
□38. 汗衫	hànshān	肌着。
□39. 睡衣	shuìyī	寝巻き, ネグリジェ。
□40. 胸罩	xiōngzhào	ブラジャー。(《乳罩 rǔzhào》)とも。
□41. 帽子	màozi	帽子。(《顶 dǐng》)
□42. 领带	lǐngdài	ネクタイ。(《条 tiáo》)
□43. 领巾	lǐngjīn	ネッカチーフ。
□44. 围巾	wéijīn	マフラー, えりまき。
□45. 带子	dàizi	ベルト。
□46. 手套(儿)	shǒutào(r)	手袋。(《双 shuāng》)(《副 fù》)
□47. 手绢(儿)	shǒujuàn(r)	ハンカチ。(《块 kuài》)
□48. 毛巾	máojīn	タオル。(《条 tiáo》)
□49. 鞋	xié	靴; 短靴。(《双 shuāng》)
□50. 皮鞋	píxié	皮靴。
□51. 布鞋	bùxié	布靴。
□52. 拖鞋	tuōxié	スリッパ。
□53. 胶鞋	jiāoxié	ゴム靴。
□54. 雨鞋	yǔxié	雨靴。
□55. 球鞋	qiúxié	運動靴。
□56. 跑鞋	pǎoxié	スパイクシューズ。
□57. 高跟(儿)鞋	gāogēn(r)xié	ハイヒール。
□58. 靴子	xuēzi	長靴, ブーツ。
□59. 袜子	wàzi	靴下。
□60. 长筒袜	chángtǒngwà	ストッキング, ハイソックス。

絵で見る慣用語 (3)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



打官腔 dǎ guānqiāng

役人風な物の言い方をする；役人風を吹かす。官僚的な紋切り型のことばを並べ立てて責任逃れをする意にも。杓子(しゃくし)定規なことを言う。不人情な口をきく。



打落水狗 dǎ luòshuǐgǒu

水に落ちた犬を打つ；すでに打ち負かされた悪人にさらに追い打ちをかける。敵が再起できないように徹底的にやっつける。



打算盘 dǎ suànpán

そろばんをはじく；(行動を起こす前に) 細かく損得を考える。熟慮する。そろばんをおく。“打小算盘”(dǎ xiǎo-suànpán) は個人的な利益のためにみみっちい計算をする意。



打光棍儿 dǎ guānggùn

(男子が) 独身で暮らす；独り暮らしをする, やもめ暮らしをする。“光棍儿”は男性の独身者, 独り者, チョンガー。



打屁股 dǎ pìgu

尻をたたく；昔の体罰の一種。転じて厳しく批判すること, 厳しく罰すること。冗談気味に使われることが多い。任务完不成就要打屁股。任務が達成できないと, こっぴどく叱られるぞ。



打肿脸充胖子 dǎzhǒng liǎn chōng pàngzi

腫れ上がるほど自分の顔を打って太っているように見せかける；実力がないのに大物ぶる。お金が無いのに有るふりをする。痩せ我慢を張る。



戴高帽子 dài gāomàozi

人をおだてる；おべっかを使って持ち上げる。おだてに乗せる。“高帽子”は“高帽儿”(gāomàoer)とも。他爱戴高帽子。彼はおだてに乗りやすい。



倒胃口 dǎo wèikǒu

食べ飽きて食欲を失う；飽き飽きする。うんざりする。这种低俗的电视剧，真让人倒胃口。この低俗なテレビドラマには、まったくうんざりさせられる。



吊胃口 diào wèikǒu

食欲をそそる；人の欲望をそそる，その気にさせる。吊吊他的胃口。彼の気を引いてその気にさせる。



丢眼色 diū yǎnsè

目配せする；目つきで知らせる。目で合図する。“使眼色”(shǐ yǎnsè)とも。他丢了个眼色，我就明白了。彼が目配せしたので，私は気づいた。



兜圈子 dōu quānzi

ぐるぐる回る；回りくどい話し方をする。遠回しに言う。别跟我兜圈子，有话直截了当地说吧。持って回った言い方をやめて，話があるならばはっきり言いたまえ。



斗心眼儿 dòu xīnyǎnr

知恵を闘わせる；腹の探り合いをする。中心いがみあう。内心火花を散らす。何必这么斗心眼儿！なにもそういがみあうことはなかるうに。

“愿意”と“肯”

日本中国語検定協会評議員・文京学院大学 魯曉琨

“肯”も意志を表す助動詞の一つですが、“想”“要”“愿意”と比べると、ずっと難しいので、まだ使ったことがない学習者が多いだろうと思います。

辞書によれば、“肯”は「進んで…(する)・喜んで…(する);承知の上で…(する)」という意味です。次のような例があります。

(1)只要你肯下功夫, 外语也并不难学会。

(君が進んで勉強しさえすれば、外国語を身につけるのもそう難しいことではない。)

(2)我请他来, 他怎么也不肯来。

(彼に来てくれと頼んだが、彼はどうしても来ようとしなない。)

例(1)では、“肯”を「進んで」と訳しましたが、データベースで調べたところ、“肯”の訳し方が文脈によって変わり、うまく訳せない場合もあります。また(2)のように、“不肯”はよく「…しようとしなない」と訳されますが、逆に「…しようとしなない」は“不想”“不愿意”“不打算”などと訳すこともあります。このように、辞書の説明や日本語への訳し方からだけでは、“肯”の使い方は分かりにくいと思います。そこで、“愿意”と比べながら、“肯”の使い方考えることにしました。

“肯”と“愿意”は一つの共通点があります。前回“想”と“愿意”の相違点について説明したときにすでに言及したように、“想”は動作主の自発的な希望を表すのに対して、“愿意”は与えられた選択肢に対する動作主の回答としての願望を表します。“肯”は“愿意”と同じく、与えられた選択肢がなければ使えません。そのため、“愿意”を“肯”に言い換えても大差がない場合もあります。

(3) a 我不愿意去北京, 他也不愿意来上海, 所以就分手了。

(私は北京に行くのが嫌で、彼も上海に来るのが嫌なので、別れたのです。)

b 我不肯去北京, 他也不肯来上海, 所以就分手了。

(私は北京に行こうとせず、彼も上海に来ようとしなないので、別れたのです。)

しかし、(3)を下(4)のようにしますと、“肯”を用いることはできなくなります。

(4)我不愿意(*肯)去北京, 他也不愿意(*肯)来上海, 但最后还是我答应去北京了。

(私は北京に行くのが嫌で、彼も上海に来るのが嫌だが、結局、私が折れて北京に行くことにした。)

ここで、(3)と(4)の違いに注目しましょう。(3)は順接の複文で、前の願望と後の行動が一致していますが、(4)は逆接の複文で、前の願望と後の行動が一致していません。この違いから“愿意”と“肯”の一つの相違点が分かります。“愿意”を使うとき、「願望」と「行動」は一致していても、一致していかまいませんが、“肯”を用いるときは、「願望」と「行動」は一致していなければなりません。

そのため、「願望」と「行動」が一致しない場合、「愿意」を「肯」に言い換えることはできません。たとえば、

(5) 谁愿意(*肯)离婚啊? 谁也不愿意(*肯)。

例(5)では、「誰も離婚したくない」と言っても離婚する人はかなりいます。もし、「肯」が使えるなら、世の中から離婚という現象が消失するはずですが、現実はその通りではないので、「肯」は使えません。「愿意」は願望にとどまるだけでもいいですから、「你愿意去也不能去」(あなたは行きたくても行ってはいけない)や「你不愿意去也得去」(あなたは行きたくなくても行かなければならない)のような構文があります。いうまでもなく、「肯」はこのような構文には使えません。

ここまでの説明を読むと、与えられた選択肢に対して、「願望」と「行動」が一致していれば、「愿意」と「肯」は互換性があると思われるはずですが、現実はその通りにはいきません。以下の例を見てみましょう。

(6) 听说暑假的集训地点有三处, 我愿意(*肯)去九州。

(夏休みの合宿の候補地は三か所があるそうだが、私は九州に行きたいです。)

例(6)では「肯」が使えないのは「肯」にはもう一つの制約条件があるからです。「肯」を使う場合、動作主に与えられた選択肢は苦労や困難などを伴い、通常は選択されないにもかかわらず、動作主があえて選択するものです。たとえば、

(7) 遇到困难, 他最肯动脑筋, 想办法。

(困難に遭遇すると、彼は最も積極的に頭を働かせ、方法を考える。)

例(7)にある「动脑筋, 想办法」は苦労を伴うことで、決心しないと選択できないことです。例(1)にある「下功夫」も同じ解釈ができます。しかし(6)の「去九州」は通常は選択されないものではないからです。

一方、「不肯」を使う場合、動作主に与えられた選択肢は通常は選択したいまたは選択すべきであるにもかかわらず、動作主はあえて選択しないものです。

(8) 大家都很渴, 可是这杯水谁都不肯喝。

(みんな喉が渇いているが、しかし、グラスの水を誰も飲もうとしない。)

例(8)は、常識的に考えると、みんな水を飲みたく、「喝」を選びたいが、誰も「喝」を選択しなかったケースです。また、例(2)は来るよう頼まれたならば、「来」を選ぶべきですが、彼は「来」を選択しなかったケースです。

最後に「肯」と「愿意」の区別を踏まえ、(9)を解釈しましょう。

(9) a 你愿意跟我结婚吗? (結婚してくれますか。)

b 你肯跟我结婚吗? (私のようなものでも結婚してくれますか。)

(9) a も(9) b も自分が相手と結婚したいという意味が含まれているプロポーズです。しかし、「肯」を使うと、あなたの結婚相手としては、私があまりにも釣り合わないの、あなたのような人は普通は私を選ばないが、それでも私を選びますかという意味が含まれています。プロポーズを受けた側は結婚に応じるなら、「我肯跟你结婚」より「我愿意跟你结婚」と答えたほうがいいです。「愿意」を使うと、相手が思ったことを否定し、自尊と自信を与えるからです。

どこがおかしい？なぜおかしい？

——「日文中訳添削講座」から (24)

(98) 大急ぎで医者を呼びに誰か人をやりなさい。

これは兼語式の文と“把”構文を併用する文です。ポイントの1つは「誰か人をやりなさい」の「誰か」でしょう。そのまま“誰”とするのは間違いです。日本語の意味でも、この「誰か」は医者を呼びに行く特定の誰かです。言葉を替えて言えば、「誰か」に重点が置かれているのではなく、「誰かが行け」と「行く」ことに重点が置かれています。そこで“人”を使って“派人”或いは“让人”とします。例えば「誰かいますか？」と問いかける時にも“有人吗？”と“人”を用います。

文全体としては“把”構文でも連動文でも、どちらでも表現できます。“把”構文の場合、“派(让)人把医生(大夫)叫(请/找)来。”「人をやる」はつまり「人を派遣する」ですから、“派(让)人”に続く動詞は“叫来”“请来”のようにやはり方向補語を伴います。連動文の時は“去叫(请/找)医生(大夫)”で、前の動詞の目的が後ろの動詞「(医者を)呼ぶ」であるという構成になっています。

《参考訳文》 赶快派(让)人把医生(大夫)叫(请/找)来。

让(派)人赶快去叫(请/找)医生(大夫)。

赶快让(派)人去叫(请/找)医生(大夫)。

(99) もし君が手伝ってくれるなら、あの仕事を引き受けてもよい。

「もし…なら」という意味の“如果……(的话), 就……”“假如……(的话), 就……”などを用いて仮定関係を表す複文を作ります。

「あの仕事を引き受ける」は“接受那份工作”“同意干那个工作”などに当たります。文末の「…してもよい」は“可以干……”“可以接受……”“做……也行”と訳します。参考訳文にある“愿意”“能”は「…してくれるなら」に含まれている語気です。人に手伝ってもらう時に、語気を柔らかくするために用います。例えば「鞆をちょっと持ってくれる？(你能帮我拿一下包吗?)」「英語を教えてくれる？(你愿意教我英语吗?)」。もちろん“愿意”“能”を使わなくても間違いではありません。これはコミュニケーションをスムーズに行うテクニックの1つです。

《参考訳文》 如果你愿意帮我忙的话, 我可以接受那份工作。

如果你能帮我个忙, 我愿意做那个工作。

(100) 終電に乗り遅れないよう、そろそろ帰り支度をしましょう。

この文は「…しないようにするために、…しましょう」という意味ですね。“省得”“以免”を使って、(ある事態の回避を目指す)目的関係を表す複文にします。

「終電に乗り遅れる」のは回避したい事態ですので、“省得”“以免”の後に置

き“……，省得误了末班电车”“……，以免赶不上末班车”と訳します。文末の「…
しましょう」は弱い「意思」，或いは「勧誘」のニュアンスが含まれていますので，
語気助詞“吧”を使っても構いません。「そろそろ」は“该……了”“差不多可以
……”などとなります。「帰り支度をする」は“准备回家”“做回家的准备”です。

ここで，“以免……”と“以便……”の違いに注意していただきたいです。“以免
……”には「マイナス的なことを避けるために」というニュアンスがあります。後
に続くのは基本的によくないことですから，“以免赶不上末班车”は正しいです。
一方，“以便……”には「よいことを実現するために便利を提供する」ニュアンス
があります。従って“以便……”を使う場合は“以便赶上末班车”になります。ま
た，“为了……”も「ある目的を実現するために」という意味ですので，“为了
……”を使う場合，“为了赶上末班车”と訳すべきです。

なお参考訳文①の“可以……了”は「もうそろそろ…してもいいよ」という語気
を表しています。②の“收拾收拾回家吧”は「帰りの支度をしましょう」の意味で
す。これにも「急いで」という意味がなく，「もうそろそろ…してもいいよ」とい
うニュアンスが含まれています。

《参考訳文》 ①我们可以准备回家了，免得误了末班电车。

②我们收拾收拾回家吧，省得赶不上末班车。

(101)中国には「河ひとつ越えればすべてが違う」ということわざがある。揚子江
文化と黄河文化では，まるで異なるのである。性格，言葉，習慣すべての面で違う。

「ことわざ」は“谚语”“俗话”“俗语”です。「河ひとつ越えればすべてが違う」
は“隔河千里远”ですが，直訳した方が圧倒的に多くいました。例えば“过一条河
就什么都不一样了”“一过河就完全不同了”“只隔一条河彼岸就是另一个世界”など，
これらはいずれも“谚语”ではありません。訳例としては，“隔河千里远”のほか
に“十里不同风，百里不同俗”や“隔河不下雨，百里不同俗”なども挙げられます。

「揚子江文化と黄河文化」の部分ですが，“扬子江”は長江の下流で入り江に近い
部分の河の旧称で，後に“长江”の代名詞として使われました。「文化」や「文明」
について言う場合は，“黄河文明”に対して，一般的に“长江文化”“长江文明”と
言います。“扬子江文化”や“扬子江文化”という表現は添削しました。「すべてが
違う」は“全都一样”と訳す人が多く見られました。間違いではありませんが，“迥
然不同”か“截然不同”の方がより適切でしょう。

《参考訳文》 ①中国有一句谚语叫“隔河千里远”。长江文化和黄河文化截然不同。
性格、语言、习惯等方面都不相同。

②在中国，俗话说“渡过一条河就什么都不一样”长江文化和黄河
文化迥然不同，性格、语言、习惯等方面都不一样。

③中国有这样一句俗语：“穿越一条河世态就截然不同了”长江文
化和黄河文化完全不一样，性格、习惯、语言等方面都有所不同。

(文責：高部千春)

数字と関連する日中の長寿を祝うことば

日本中国語検定協会評議員・共立女子大学 李錚強

中国では2012年に唐時代から続けてきた旧暦9月9日の“重阳节”（Chóngyáng Jié）を“老年节”（Lǎonián Jié）と決めた。日本の「敬老の日」に当たるだろうが、法定休日ではない。“重阳节”は秋のさわやかな季節にあり、昔から一家で老人とともに高い所に登ったり酒を飲んだりする風習があり、長寿祝いをする伝統的な節句であった。その由来は9が一桁の数のうちの最大の奇数であり、陽の数とされ、陽の重なりを吉祥とする考えから「重陽」と呼んだという。

日本では、77歳は「喜寿」、80歳は「傘寿」、88歳は「米寿」、90歳は「卒寿」、99歳は「白寿」としてそれぞれ祝宴を張る風習が昔から続いているが、いずれの語も漢字を分解するとこの数のようになるところからきている。このような漢字文化は中国伝来の風習にもとづくかと思われがちだが、実はそうとも限らない。例えば、「喜寿」の「喜」という字は草書体の「崑」が「七十七」に見えるところから数え年の77歳を祝う語として定着しているが、現代中国ではこの「喜の祝い」を行う習慣は見られず、当然「喜寿」という語も存在しない。また、「傘寿」は「傘」の略体「伞」が「八十」と読めるところから数え年の80歳になった祝い。しかし、この特別な呼び名も現代中国では見られず、一般的に“80大寿”または“80寿辰”のように用いている。さらに、「卒寿」という語の由来も「傘寿」と同じ原理で、「卒」の略体の「卒」が「九十」と分解できるところから数え年の90歳とされるが、現代中国では「卒寿」という用語はなく「卒寿」を祝う場合、“90华诞庆典”、“90寿辰祝贺会”のように用いるのが普通である。

一方、「米寿」については「米」の字を分解すると最初の筆順の点々を逆さにして「八」、次が真ん中の「十」、そして下の「八」となることから88歳のこと。この語も中国由来のものではないが、改革開放後に、日本語から逆輸入して中国人にも好まれた新語として使われ始め、“米寿”の祝いを行うようになったところから、2012年に改訂された《現代汉语词典第6版》（商務印書館）にこの“米寿”（mǐshòu）を収録することとなった。「白寿」については「百」の字から「一」をとると「白」の字になることから、99歳。これは古くから中国に存在するもので、現在まで99歳の祝いの雅称として“白寿”が用いられている。ちなみに百寿より“白寿”の祝いを行うほうがめでたいとされている。

さらに数字に関連する中国の賀寿用語を調べてみたところ、“茶寿”が見つかった。この“茶寿”は文字自体は全く日本語と変わらないが、日本では通用しない語である。“茶”という漢字を分解すると草冠が二つの「十」に見えることから「二十」、下が「八十八」に分解できることから、20と88を足すと108になるため、108歳の高齢を祝う最もめでたい語になったという次第である。

中国語とのつきあいを振り返る

齋藤真希子

中国語を学び始めてかれこれ20年余りになる。飽きっぱい自分がなぜこれほど長く続けているのか自分でも正直よくわからない。もっとも20年といっても毎日欠かさず勉強してきたというわけでもない。猛然と勉強していた時期もあれば、壁にぶつかって全く勉強しなかった時期もある。どちらかと言えば壁と向き合っていた時間のほうが長かったかもしれない。それでも何とはなしに続けてきた理由はなんだったろうか。

中国語を始めたきっかけは、大学の第二外国語が独語と仏語しか選べなかったことにある。昔も今も英語が天敵の自分が独語や仏語を理解できるとはとても思えず、かといって大学生になって第二外国語を履修していないのも格好が悪い。ならば以前から興味があった中国語を自分の第二外国語にしよう、と勝手に決めてラジオとテレビの中国語講座で勉強を始めたのがそもその始まりだった。

ちょうど中国語検定の認定基準は4級が大学の第二外国語1年履修程度、3級が2年履修程度だったから、大学で勉強しなくても、1年で4級、2年で3級に合格すれば、堂々と「自分の第二外国語は中国語」と言えるだろうと考えた。学生時代は試験慣れしていたこともあったのだろう、4級も3級も無事合格できた。当初の目的からすれば、この時点で勉強をやめてもよかったはずだがそうはならなかった。結局3年目には準2級（当時・現2級）に合格している。その頃には第二外国語はもうどうでもよく、ただ中国語がうまくなりたかった。

そうなった原因の1つは大学2年の夏に初めて行った北京旅行だったと思う。当時中国旅行は今ほどメジャーではなく、しかもツアー参加者の多くは年配者で若者はめずらしかったらしい。この時ツアーに参加したのは私たち姉妹だけだったが、私が中国語を勉強しているという、現地ガイドは面白がって「あれ読めますか?」「これは何という意味かわかりますか?」と行く先々で中国語の先生になってくれた。自分たちだけで土産店に行って私がなけなしの中国語を話す、「日本人?」「留学生か?」「中国語が話せるのか?」と店員にめずらしがられた。中国語を勉強していると、自分は正しいつもりで発音しているこの言葉が果たして本当に通じるのか、いつも試してみたかったが旅行中はまさに試し放題だった。自由時間に自力で動物園に行った時の達成感は何とも言えないものがあつた。その後仕事や旅行で何度も中国を訪れたが、言葉が通じた時のうれしさ、言いたいことが言えなかった悔しさは、いつも中国語を勉強する原動力になっていたと思う。

最初の北京旅行から帰るともっと中国語が勉強したくなり語学学校を探した。そこで出会った当時池袋にあった中国語セミナー21が、中国語を続けることになったもう1つの原因だったと思う。他にも何校か体験授業などに行ったのだが、すでに

1年半ほど勉強していたこともあってまったくの初級クラスは物足りなく感じました。かといって通訳者や翻訳家を目指す学校は逆に難しすぎる気がした。中国語セミナー21はちょうど半年間初級クラスで学んだ人を対象に、初級クラスの後半というレベルの授業が秋から始まるころだった。クラスの途中から受講してついていけるのか不安はあったが、授業料が破格だったこともあって受講してみることにした。自分にとって初めての同学たちは年齢も職業も中国語を勉強する目的もバラバラだったが、それぞれが自分のペースで自分なりのやり方で勉強していた。そんな姿をみて自分は何のために中国語を勉強するのか、通訳者や翻訳家を目指すわけでもないのに勉強を続けてどうするのか、そんな迷いがなくなった。中国語が勉強したいから勉強する、もっとうまくなりたいから勉強する、それでいいと思えるようになった。結局初級クラスに続いて中級クラスも何クラスか受講したが、ここでは中国語の授業はもちろん、先生や同学たちから中国の話聞くのがとても楽しかった。中国語だけでなく中国そのものへ興味が広がったことも中国語を続けることになった原因だと思う。ここで知り合った先生や同学の中には今でも連絡を取っている人が何人かいる。それほど自分にとっては貴重な体験だったのだと思う。

大学卒業後、半年間の北京留学を経て大学の専攻とは全く関係のない日中関係団体に就職した。軽い気持ちで始めた中国語がこんな形で自分の人生に影響を与えることになるとは思ってもいなかった。その後転職し、中国語をまったく使わない職場で働く日々が続いてもなんとなく中国語は続けていた。すると不思議なもので再び中国語を使う職場で働く機会が巡ってきたりするのだ。仕事の都合でそれまで興味もなかった中国語を勉強している職場の人たちに触発されて再び中国語検定に挑戦してもみた。就活中の学生でもあるまいし何を今さら、と言われたし自分でもそう思わないでもなかったが、2級と準1級、ともに合格するとやはりうれしかった。

言語の学習には限りがない。勉強しても覚えきれない言葉は山ほどあり、さらに新しい言葉は日々生まれていく。仕事のため、或いは日中友好の理想のためなど明白な目標があれば挫折を乗り越えて勉強を続けることができるかもしれない。しかしただ言葉を習得することだけを目標にするとすぐに壁にぶつかってしまう。私も何度も壁にぶつかってきたが、それでも気づくと中国語を続けている。そこには目的は違っても同じく中国語を学ぶ人の存在と、中国そのものへの興味があったように思う。実は最近少し中国語から遠ざかっている。しかしきっと何かのきっかけで再び中国語を勉強し始めるだろうと思っている。これまでもそうであったように。

【訂正】『中国語の環』第97号に誤植がありましたので、お詫びして訂正いたします。

16頁18行目〔誤〕太陽 tài·yang 〔正〕太阳 tài·yáng

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、検定試験に関する事など、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、記念品を進呈します。